

第1学年*組 芸術科(書道)学習指導案		指導者 藤枝 咲絵		
平成*年*月*日(*) 第*校時 **教室				
単元目標	<p>○自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫しようとする。</p> <p>○意欲的、主体的に漢字の書的美を味わおうとしている。</p> <p style="text-align: right;">(書への関心・意欲・態度)</p> <p>○漢字の書の構築的な構造を理解し、字形の構成を工夫することができる。</p> <p>○漢字の書的美に関する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫することができる。</p> <p style="text-align: right;">(書表現の構想と工夫)</p> <p>○漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表すことができる。</p> <p>○表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表すことができる。</p> <p style="text-align: right;">(創造的な書表現の技能)</p> <p>○鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書よさや美しさを感じとっている。</p> <p style="text-align: right;">(鑑賞の能力)</p>			
単元の評価規準	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫しようとしている。</li> <li>意欲的、主体的に漢字の書的美を味わおうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書の構築的な構造を理解し、字形の構成を工夫している。</li> <li>漢字の書的美に関する感性を働かせて、自らの意図に基づいて表現を構想し工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付け表している。</li> <li>表現技法を高めるために、姿勢、執筆法などの基本的事項を身に付け表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞と表現は相互に関連していることを理解し、書よさや美しさを感じとっている。</li> </ul>
題材(教材)	楷書の学習「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」			
単元(教材)について	<p>(1) 生徒観：前単元において、用具用材の使用と基本点画の筆法は理解している。古典を学ぶことは初めての経験であるため、原帖の字を観察したり、結構や特徴を捉えたりするのは難しいと考えられる。また、積極的理由で書道を選択した者とそうでない者、書道教室等での経験者と未経験者等において取組の態度や書写の技術に個人差がある。未経験の生徒にとっては特に、字の構造を観察し再現するということが難しい作業と思われる。</p> <p>(2) 教材観：書道を学ぶ上で多くの人が初めに触れるであろう楷書の古典2点を取り上げる。日頃親しみのある楷書体であること、対照的な2点を扱うことで、書風の特徴が見出しやすくなる。楷書という枠組みの中で書風による違いがあることを、示すことができる。</p> <p>(3) 指導観：初めて楷書を臨書しようとする、丁寧に書き、紙面に文字を収めること以外に注目する点が見つかりにくい。各古典の特徴とはなんなのか、前単元で学んだ基本点画をどのように組み立てるとそれが表現できるのかを見付けさせるため、各点画のパズルを行う。文字を最小単位の構成要素である点画に分解することで、その文字を構成する画の長さやバランス、線質、またその点画の交わりや配置等を分析することができる。グループ活動が活発に行われるよう、教室を巡回し、上記の点に関して助言をする。</p>			
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価	
	1 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」の中から共通の一字を取りあげる。何も見ずに自分で書いてみた後、原帖の字を見て臨書を試みる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的、主体的に漢字の書的美を味わおうとしている。</li> <li style="text-align: right;">(書への関心・意欲・態度)</li> <li>漢字の書の構築的な構造を理解し、字形の構成を工夫している。</li> <li style="text-align: right;">(書表現の構想と工夫) (鑑賞の能力)</li> </ul>	
	2 1で選択した字を各点画のパーツに分け、組み立ててみる。「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」の同字を比較する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書の構築的な構造を理解し、字形の構成を工夫している。</li> <li style="text-align: right;">(書表現の構想と工夫) (鑑賞の能力)</li> </ul>	

	<p>3 2で確認したそれぞれの特徴や学んだこと、反省をいかし、一字を丁寧に清書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「九成宮醜泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較し、それぞれのよさを味わおうとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>・自らの感性や意図に基づいて、字形の構成や全体の構成を工夫しようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>・漢字の基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を理解し、創造的な表現を身に付ける。 (創造的な書表現の技能)</li> </ul>
<p>本 時 案 (第 1 時)</p>		
<p>本時の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的、主体的に漢字の書の美を味わい、古典の特徴をとらえようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</li> <li>○漢字の書の構築的構造を理解し、古典の特徴に応じた字形の構成を工夫することができる。 (書表現の構想と工夫)</li> <li>○鑑賞(観察)と表現が相互に作用するものであることを理解する。 (鑑賞の能力)</li> </ul>	
<p>学習活動</p>	<p>指導上の配慮事項など</p>	<p>評価・方法など</p>
<p>&lt;準備物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・油性ペン</li> <li>・ボールペン</li> <li>・はさみ</li> </ul> <p>1 前時までの学習内容(基本点画の学習)と、本時の学習内容を確認する。(5分)</p> <p>※以下、グループ活動 同字を選択した者同士で4人グループを組む。⇒10班</p>	<p>&lt;準備物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「九成宮醜泉銘」の拡大コピー(一人2部) 「神」「武」「帝」「皇」 (生徒が選択できるように、数種字を用意。課題は前時にそれぞれ選択しておく。)</li> <li>・画用紙(白・黒)</li> <li>・メンディングテープ</li> <li>・予備の油性ペン、ボールペン、はさみ</li> </ul> <p>○前時の提出作品(「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」の臨書(半紙1枚に本時に用いる4字のうち1字を书写)各1枚)を返却する。 本時はその発展であることを知らせる。</p> <p>○選択字ごとに席を移動させる。 ○座席移動後、用具準備。</p>	
<p>「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」の字形の構造を知ろう。</p>		
<p>2 トレーシングペーパーで課題の各画を丁寧に写し取る。(10分)</p> <p>3 黒画用紙の上に、各画を写し取ったトレーシングペーパーをのせ、ボールペンでなぞる。(10分)</p> <p>4 ボールペンの跡に従い、はさみで丁寧に切り取る。(15分)</p> <p>5 「九成宮醜泉銘」「孔子廟堂碑」の同字同画を比較する。</p>	<p>○紙がずれてしまう場合、文鎮やメンディングテープを使用させる。 ○トレーシングペーパーはできる限り余白ができないようにさせる。 ○丁寧に形をとるよう注意を促す。</p> <p>○トレーシングペーパーをメンディングテープで黒画用紙に留めさせる。 ○画用紙に跡が残るよう、筆圧をかけるよう促す。</p> <p>○見づらい場合は鉛筆等でボールペンの跡をなぞって見やすくするよう促す。</p> <p>○同じ字の同じ画であっても、長さや太さの割合が違っていたり、線質が違っていたりすることに気付かせ</p>	<p>◇意欲的、主体的に漢字の書の美を味わい、古典の特徴を</p>

<p>グループで話し合いワークシートにまとめる。(10分)</p>	<p>る。 ○背勢, 向勢に注目させる。</p>	<p>捉えようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p>
<p>6 白画用紙上に各点画を組み立て、一字を構成してみる。(15分)</p>	<p>○余白や点画の交わりをよく観察させる。 ○台紙(白画用紙)上で形がとれたら、メンディングテープで固定させる。</p>	<p>◇字形を観察し、構成や全体の構成を工夫しようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p>
<p>7 構成が出来上がったものと前回書いてきたものを文字ごとに黒板に貼り出し、批評しよう。(20分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《観点例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで書写したものと本時に構成したもので、どちらが原帖の趣に近いか。</li> <li>・班員の作品の中で、どの作品が最も特徴を捉え再現できているか。なぜそう感じたか。</li> <li>・より古典の特徴を再現するためにはどのような点に留意すべきか。</li> </ul> </div>	<p>◇漢字の書の構築的な構造を理解し、字形の構成を漢字の書の構築的な構造を理解し、古典の特徴に応じた字形の構成を工夫しながら取り組んでいる。 (書表現の構想と工夫)</p>
<p>8 前回の書写と、本時の授業を通してどのような発見があったかをまとめ、ワークシートに感想を記入する。(10分)</p>	<p>○画の長さや太さ、点画の交わり等、初見とどのように違っていたか。 ○自分でやってみたものと、同じグループのメンバーのものを比較してみてどうだったか、他の文字のグループのものを見てどうだったか等、全体に声をかける。</p>	<p>◇積極的に議論に参加しようとしている。 (書への関心・意欲・態度)</p> <p>◇鑑賞(観察)と表現が相互に作用するものであることを理解し、ワークシートにまとめている。 (鑑賞の能力)</p>
<p>9 片付け。(5分)</p>	<p>○次の授業に遅れぬよう、すみやかに片付けをさせる。</p>	

楷書の学習

「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」

年 組 番

◇選んだ文字



∴「神」「武」「皇」「帝」から一字

◇「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」の各点画を比較してみよう。  
太さ・長さ・形・線質・かたさ・温度……比べてみるとどうだろうか。

何画 め？	点 画 の 図	九 成 宮 醴 泉 銘	孔 子 廟 堂 碑

◇点画のパズルを組み合わせて出来上がったものと、前回書いてみたものを比較して気づいたことをあげてみよう。

《観点の例》

- ・前回書写したものと本時に構成したもので、どちらが原帖の趣に近いだろうか。なぜそう感じるのだろうか。
- ・班員の作品の中で、どの作品が最も特徴を捉え再現できているだろうか。なぜそう感じるのだろうか。
- ・より古典の特徴を再現するためにはどのような点に留意するとよいだろうか。

◇他のグループの作品をみて気付いたことを自由に記入しよう。

◇前回の書写と今回の活動を通して、どのような発見がありましたか？

◇今回の活動の感想を自由に書き留めておこう。